

シラバス(生徒用)(案)

教科名 芸術・音楽	教材 教科書 音楽1 副教材 コールユーンゲン 巻、ギターテキスト、自主教材プリント
学習目標	歌唱、器楽、創作による表現活動及び鑑賞活動の幅広い学習を通じて、音楽を愛好する心情を育成する。 にあげた幅広い活動を通して、音や音楽が有するよさを感じ取り、自己の感じ取ったイメージを表現(音楽及び言語による表現)し、聴き手に伝える表現力を伸長する。 我が国や西洋音楽を含む諸外国の音楽を学習し、それぞれの音楽文化の特性やよさを感じるとともに、多様な音楽観の育成をはかる。
評価	「関心・意欲・態度」「芸術的な感受や表現の工夫」「創造的な表現の技能」「鑑賞の能力」の4つの観点により評価する。 演奏発表(教材の斜体字の項目)、提出課題(練習日誌、enjoy music、自己評価・他者評価、合格チェック等)の評価に毎時間の評価(出席状況を含む)を加え、各学期毎に評価する(100点法による絶対評価)。学年末には、各学期成績を総括し、評定をつける。 (5段階; 5 - 80 4 - 65 3 - 50 2 - 40 1 - 39 不認定)

月	題材	教材	学習内容
4	校歌 青春の歌	校歌 翼をください 少年時代 Believe 上を向いて歩こう 帰れソレントへ <b>ああ 我が太陽</b> Caro mio ben	高生としての自覚を持つとともに、自校を愛好する心情を養う。 今までに慣れ親しんだ曲を歌い、歌うことの楽しさを感じるとともに、それぞれの曲の効果的な演奏法を工夫する。(斉唱・2部合唱)
5	世界の歌 イタリア編 重唱・合唱の楽しみ	カノン・カデンツ ほたる ふるさと 時の旅人 ゴスペル <b>リコーダーアンサンブル作品より</b>	イタリアの作品の歌唱を通じて、ベルカント唱法の特徴を感じ取り、歌唱の基礎となる呼吸、発声について学習し、声の持つ魅力や可能性を探る。 ポリフォニー、ホモフォニーの特徴を、簡単に短いパッセージの歌唱を通じ、理解する。 さらに、2人から全員までの重唱・合唱を通じて、声楽アンサンブルの楽しさを感じ取るとともに、それぞれの楽曲の構造をとらえ、表現に生かす工夫をする。
6	器楽 リコーダーアンサンブルの楽しみ	<b>リコーダーアンサンブル作品より</b>	グループで10数曲のリコーダーアンサンブルの作品から1、2曲選曲し、曲に応じ、S A T Bリコーダーを用いて、音色、強弱、速度、フレーズ等の表現をグループで工夫する。
7	音や音楽への関心・体験	サウンドスケープ 夏の音楽体験	自分の好きな場所において、身の周りの音に耳を傾け、サウンドマップを作成する。 聴くもよし、演奏(歌、器楽、作曲)するもよし、音や音楽に関する体験をレポートにまとめる。あるいは、演奏を持ってレポートに代える。
	ソルフェージュ	<b>ソル</b> ~ 26 音・リズム遊び	音程、リズム、アーティキュレーション等、視唱力・視奏力の伸長をはかるとともに、創作活動にも取り組む。
9	世界の歌 ドイツ編 日本の歌	<b>野ばら</b> (シューベルト、ウェルナー) 歓喜の歌 夏の思い出 浜辺の歌 赤とんぼ	ドイツ語の発音の特徴を感じ取りながら歌うとともに、イタリア語、日本語による歌唱との共通点、相違点についても考える。 「第九」の第4楽章を鑑賞し、有名な合唱のメロディー部をドイツ語で歌う。 歌詞と音楽との関わりを感じ取りながら、日本の歌を学習する。歌とピアノの役割についても考える。
10	日本の民謡 声の魅力	こきりこ節 八木節 ホーミー、ケチャ、	我が国の伝統的な発声法の特徴を感じ取り、民謡の音楽的特徴を学習します。歌唱による表現だけでなく、打楽器をお囃子として挿入したり、リコーダーやシロフォン等を使って歌や器楽による表現を工夫する。 世界の諸民族の声による表現を鑑賞し、発声の特徴とそれぞれの声の持

11	合唱の楽しみ	ブルガリアンヴォイス、声明等 <b>聞こえる</b>	つ魅力を探る。さらに、文化的・歴史的背景と音楽との関わりについて関心を持つ。 大人数の混声四部合唱により、合唱の喜びを感じるとともに、各声部のかかわりや楽曲を構造的にとらえ表現を工夫する。
12	器楽 ギター編	<b>ギターテキストより</b>	旋律とコードの奏法を学ぶ。アンサンブルでは、曲の構成や曲想を把握し、グループ毎に表現を工夫する。ニューミュージックの弾き語り（コード）にも挑戦する。
冬	音楽表現の楽しみ ソルフェージュ	自由表現 <b>7-1 27 ~ 35</b> 音・リズム遊び	選曲、表現方法、表現形態ともに各自で選択し、3学期に発表する。 音程、リズム、アーティキュレーション等、視唱力・視奏力の伸長をはかるとともに、創作活動にも取り組む。
1	音楽表現	<b>自由表現：ミュージックフェスティバル</b>	自由表現の演奏及び鑑賞を通じて、さまざまな表現方法や表現形態に応じた演奏法について、自他ともに学ぶ。
2	器楽 和楽器箏編	<b>箏テキストより</b>	和楽器：箏を体験し、楽器の特徴やいろいろな奏法について学び、さくらさくらのオリジナルヴァージョンを創作する。実演家による指導あり。
3	ミュージカルの楽しみ	踊り明かそう メモリー 美女と野獣 教科書より	ミュージカルソングの歌唱、名場面の鑑賞を通じて、劇音楽や総合芸術の魅力を感じ取り、各場面に適した表現を工夫する。
春	音楽表現の楽しみ ソルフェージュ	自由表現 <b>7-1 36 ~ 39</b> 音・リズム遊び	教科書より1曲選択し、表現方法、表現形態ともに各自で考え、2年生の新学期に発表する。 音程、リズム、アーティキュレーション等、視唱力・視奏力の伸長をはかるとともに、創作活動にも取り組む。

芸術・音楽 年間指導計画及び評価計画（第1学年）（案）

第1学年		学期	第1学期					第2学期					第3学期											
目標		月	4	5	6	7	夏	9	10	11	12	冬	1	2	3	春								
音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。		題材名	校歌	青春の歌	世界の歌 イタリア編	重唱・合唱の楽しみ	楽器 リコーダーアンサンブル	ソルフェージュ	音や音楽への関心・体験	世界の歌 ドイツ編	日本の歌	日本の民謡	声の魅力	合唱の楽しみ	楽器 ギター基礎編	ソルフェージュ	冬 音楽表現	音楽表現	楽器 和楽器箏編	ミュージカルの楽しみ	ソルフェージュ	春 音楽表現		
			指導事項	A 表現	(1) 歌唱	ア 曲種に応じた発声の工夫 イ 視唱力の伸長 ウ 歌詞及び曲想の把握と表現の工夫 エ 合唱における表現の工夫																		
	A 表現	(2) 楽器	ア いろいろな楽器の体験と奏法の工夫 イ 視奏力の伸長 ウ 曲の構成及び曲想の把握と表現の工夫 エ 合奏における表現の工夫																					すべての指導事項に関わる
	B 鑑賞	(3) 創作	ア いろいろな音階による旋律の創作 イ 旋律に対する和音の工夫 ウ 音楽の組み立て方の把握 エ いろいろな音素材を生かした即興的表現																					
	B 鑑賞		ア 声や楽器の特性と表現上の効果 イ 楽曲の歴史的背景 ウ 我が国の伝統音楽の種類と特徴 エ 世界の諸民族の音楽の種類と特徴																					
	評価の観点		ア 関心・意欲・態度 イ 芸術的な感受や表現の工夫 ウ 創造的な表現の技能 エ 鑑賞の能力																					

印は各題材における中心となる指導事項及び評価の観点、 印は関連となる指導事項及び評価の観点